



- 宇部興産物語
- 環境安全部だより
- 研究所探訪
- こんにちは宇部興産です
- 地域の顔
- クラブ紹介
- 社員登場
- おしらせ

探索中
at UBEアイプラザ
ロボくん



発行：
宇部興産株式会社
〒755-8633
山口県宇部市大字小串1978-96
宇部渉外部（電話0836-31-2111）

トワイライト 撮影：今西 亜紀子様（宇部市）

日本全国で排出される二酸化炭素のうち、2割は人や貨物の輸送によって放出されています。自動車や船の燃費を向上することは環境改善に大きな効果があります。

興山丸は従来のエンジン駆動と電気モーターによる推進を組み合わせた革新的なハイブリッド推進システムを搭載しています。その先端メカニズムに気象情報や潮流データを解析してコンピュータが最適な航路、速度を提案する新開発の航海システムを組み合わせることで、トン・マイル当たりの二酸化炭素排出量を20パーセント削減することに成功し、日本物流団体連合会が選出する物流環境大賞を受賞しました。

また、ベテラン船員の確保が困難になってくる将来においても、安全、クリーン、迅速な輸送を行うために操縦システムも新たに開発し、ディーゼルエンジンと電気モーターを最適なバランスで自動制御するなどの工夫を凝らしています。さらに、女性の社会進出を支援するためにこのような貨物船では類を見ないレベルで女性専用スペースも充実しています。興山丸の外観は従来のセメントタンカーの機能美を踏襲したのですが、その中身は世界最先端の技術を満載したハイテクスパーエコシップとなっています。

全長160メートルの巨大な船体にスクイヤーのイメージカラーをまとったスタイリッシュな興山丸はセメント輸

環境安全部だより 物流環境大賞受賞 スーパーエコシップ 「セメントタンカー興山丸」

送トレーラートラック1000台分に相当する最大2万トンのセメントを積載し、福岡県（苅田）、山口県（宇部）から東京（港区）へセメントを輸送し、首都圏のインフラ整備並びに東北地方の復興による旺盛な需要を支えています。

興山丸はハイブリッド船という特長を活かして、舵と一体化した電気モーターによって細かい操縦制御が可能です。その場で360度旋回したり、真横へ航行したりするなどこれまでの大型貨物船では不可能だった動きを可能にし、他の大型船が狭い港の中でタグボートの力を借りながら四苦八苦している横で、自力であつとつ間に離着桟してしまう光景は船舶輸送の未来さへも感じています。



瀬戸内海で全速力で海上公試性能試験中の興山丸。船の後で小さな弧を描く波から船体を水平に保ったまま安定して急旋回していることがわかります。また波があまり立っていないことも興山丸が水抵抗の少ない省エネ船であることが分かります。

写真で振り返る「宇部興産物語」

明日の技術者を育む、長門工業学校



この写真は、昭和9年（1934年）の長門工業学校です。大正3年（1914）4月に宇部徒弟学校として開校し、8年に宇部工業徒弟学校、10年に徒弟学校制度の廃止を受け長門工業学校と順に名を改め、昭和23年の学制改革で宇部工業高等学校に併合されました。開校の目的は、宇部新川鉄工所（現在の宇部興産機械㈱）で働く技術者の養成を行うとともに、多くの子弟へ教育の機会を広げること。修業期間は2年後に4年で、午前中に授業を受け、午後からは工場での実習。授業料は免除で、実習手当が支給されていました。

教育の充実に向けては、明治43年（1910）4月に沖ノ山家庭学校（後に宇部市に移管）、大正2年4月に済美女学校（現在の県立宇部高等学校）の開校も行いました。



長門工業学校校舎の前にて

研究所探訪



研究開発本部



研究開発本部（宇部地区）

沿革
1951年 中央研究所（現研究開発本部）開設
1983年 研究開発本部が発足
2009年 組織改訂により5研究所体制へ
2014年 宇部マテリアルズ㈱の研究開発部門を統合

研究所概要
敷地面積：15,788㎡
従業員数：291名（2015年3月末日現在、千葉、東京を含む）

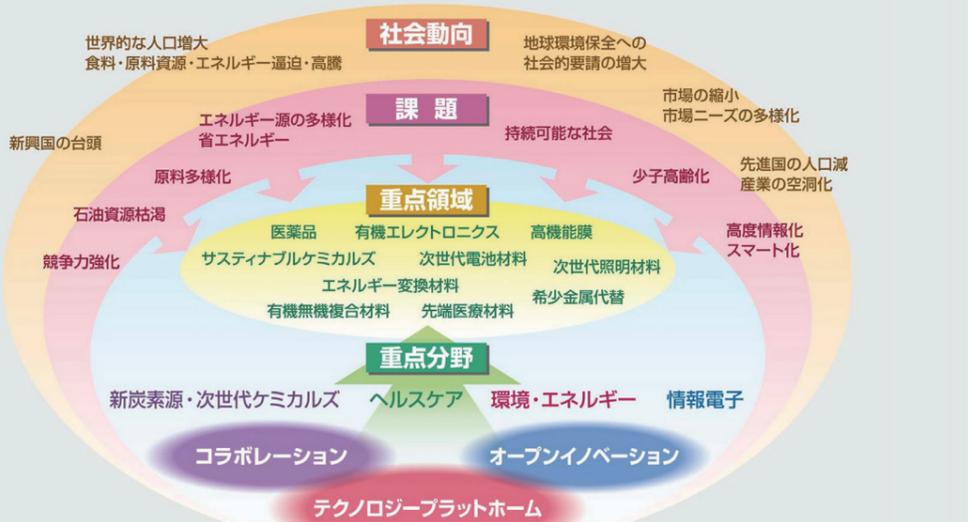
第6回目は研究開発本部を紹介いたします。研究開発本部は、1951年に中央研究所として開設以来60余年に渡りUBEの研究開発の中心的役割を担っています。現在は5研究所と1研究室の体制となっており、中期経営計画「Change & Challenge」更なる成長に向けて「1」の基本方針に沿って、既存事業分野と新規事業分野の研究開発に取り組んでいます。

既存事業分野は、既存事業の拡充・強化を図ることを目的とし、各カンパニー、事業部との密接な連携のもとに、役割分担を明確にして研究開発を進めています。

新規事業分野は、当社の中・長期の成長を図ることを目的とし、研究開発本部が主体となりカンパニーの関係部署、関係会社との連携のもとに進め、研究開発ポートフォリオ（下図参照）に沿って新炭素源・次世代ケミカルズ、ヘルスケア、環境・エネルギー、情報電子関連の研究に積極的に取り組み、新たなコア事業を育成すべく取り組んでいます。

研究開発ポートフォリオ

※社会動向に対する課題を整理し、それに対応した当社の重点領域で4つの重点分野を定め、UBEの持つ研究資源を様々な形で投入して、新規事業の創出を目指しています



環境・安全への取り組み

研究開発本部は工場のように大量にモノを扱う機会が少ないので、量的リスクは小さいのですが、多種多様な製品や装置も多岐にわたります。おのずと非常作業も多くなり、災害が起きやすい環境といえます。そのため私達は、安全衛生委員会を中心に、職場活動の基本方針として、安全衛生、環境保全、保安防災に取り組んでいます。

環境保全活動

1999年にISO14001認証を取得して以来、地道な環境保全活動を続けています。研究所は製造所ではありません。原料に製造工程の製造技術に関する研究やラクトラムの新製法、高機能で省エネ効果の高い照明材の研究などに取り組んでおり、これらの幅広い研究活動の成果を通してCO2排出削減など地球環境保全に大きく貢献したいと考えています。

保安防災活動

老朽化設備の更新と建屋の耐震補強を順次進めており、耐震対策がほぼ完了しました。

研究開発本部は色んな実験を行っている場所です。そこで多岐な環境点から安全職場を作ることを目指して、様々な職場の若手が参加する職場相互作業安全パレードを毎月実施し、お互いに問題点や指摘し合う良い点や向上意欲の高まりが職場安全に繋がっています。



安全衛生会議

トピックス

村野藤吾作品

有機化学研究所の本館は、1951年に村野藤吾の設計により建てられました。「アエル・ヤマグチ」の村野藤吾作品コースで最初に訪れる建物に設定されており、時々見学の方が見られます。残念ながら、中には入れませんが、中に入ると、この建物から外へ下りてみるのぞき窓が、ぜひ覗いてほしいです。



本館玄関

本部長メッセージ

研究開発本部では、明日の宇部興産を担う製品や技術の研究開発を行っています。昨年には宇部マテリアルズ㈱の研究開発部門をUBEへ統合し、新規の材料開発に特化した研究を行っています。また外部との共同研究も実施しており、色々な形でUBEの新しい可能性を開く研究開発を皆で進めています。また無災害の継続を目指し、研究員及び地域の皆様の安全確保に努めます。



横田本部長